坂の上 茶屋の円山、暖簾(まるやま　のれん)うち
涼酒(りょうしゅ)を注ぐ 夏浴衣(ゆかた)びと

令和六年七月十三日

大中臣正比呂

道玄坂を上ると円山町である。
北は鍋島藩邸の松濤、南は南平台、西は神泉に出る。
高台の茶屋街はめづらしい。江戸は隅田川の河岸に向島、浅草、柳橋、新橋と、川沿いの下町である。坂の花街は神楽坂か。溜め池山王を越せば赤坂も高台にある。円山町は江戸時代には荒木山と言った。
佐賀の鍋島藩 荒木氏の所有であったらしい。
今は、円山町の花街は名残程度で、ラブホテルが立ち並ぶ町である。
泊り料金は一万円強というところか。周りには様々な飲食店が並ぶ。
食欲、性欲、睡眠欲という基本的欲求を満たす町なのであろう。
夏は熱き鴨鍋をつつき、それと対照の冷えた日本酒が良い。
注し手の美女は更に良し。